

地域全体で子どもの安心・安全を守るために

—2つのCAPおとなワークショップ—



おとなワークショップは子どもをサポートするおとなを子どもの周りに増やし、子どもをあらゆる暴力から守るおとなのネットワークを強化していくことを目的としています。CAPは、教職員ワークショップ（専門職対象）と保護者ワークショップ（保護者・地域のおとな対象）という2つのおとなワークショップを子どもにとっての役割の違う皆さんにむけてそれぞれ実施しています。

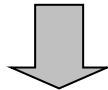
教職員、保護者や地域のおとななど子どもを支える立場にある人が、それぞれの役割の中で必要なことを学び、何ができるかを一緒に考える時間です。おとなワークショップの所要時間は約2時間です。（人数の制限はありません）。

CAPプログラムの3つのワークショップ

第1段階 **教職員ワークショップ**

第2段階 **保護者ワークショップ**

おとなワークショップ
(子どもワークショップの前に実施する)



* おとなワークショップはいずれも単独で実施することができます

第3段階 **子どもワークショップ**(トークタイム／個別の復習と練習の時間を含む)

※子どもワークショップについては別紙「CAPプログラムを知りたい方々へ3」をご覧ください。

2つのおとなワークショップは、提供する情報・内容が違います。地域のCAPグループが担当者の方とご相談しながら、内容を構成していきます。初年度は基本的な内容ですが、継続実施の中でテーマを特化（虐待・いじめ・連れ去り・性暴力・子どもの話を聴くなど）して行うこともできます。担当グループにお問い合わせください。

基本となるCAPおとなワークショップの内容の一例

- ①子どもへの暴力とは何か
- ②子どもへの暴力防止に効果的なアプローチについて
- ③子どもへの暴力防止のための考え方
- ④子どもワークショップの模擬体験とその説明
- ⑤子どもへの暴力防止のためにおとなにできること

子どもを援助するときに役立つ考え方とスキル・社会資源などの情報提供 など

CAPプログラムを知りたい方へ2（おとなワークショップについて）

これまで、子どもの暴力に関する誤解や思い込みのもとで、暴力に対しておとな同士、そしておとなと子どもが暴力について口に出すことすら難しい状況でした。そこでCAPでは、子どもの暴力にあいやすい状況を変えるために、おとな同士が助け合い、子どもを援助する場を増やすコミュニティ（地域）づくりをめざし、おとなワークショップを実施しています。

子どもが暴力について語るができるためには、まずおとなが暴力について語れること、そして子どもの話を共感しながらしっかりと聴こうとする姿勢が大切です。おとなワークショップでは、子どもの内にある力を信じることからスタートする「エンパワメント」という考え方について共有し、その力に働きかけるための具体的な行動の選択肢を考えていきます。

また、子どもが自分の危機を感じるには、自分の大切さを実感できる日常が大切です。日常生活の中で子どもが安心して、自信を持って、自由な気持ちで生きていくために、教職員、保護者（地域）がそれぞれにおとなのできることを考えていきます。それが2つのCAP おとなワークショップです。



**子どもへの暴力防止の鍵は“子どもに関わる人たちの協働体制づくり”
それには、教職員の皆さん、そして保護者・地域の皆さんの力が必要です。**

体罰・いじめなど子どもへのあらゆる暴力を防止するには、子どもの身近なおとなである教職員の皆さん、保護者・地域の皆さんが子どもへの暴力に対する正しい知識やスキル、共通認識を持つことが重要です。日常生活の中で具体性や一貫性、継続性、共感や尊重の姿勢で子どもたちに関わることで、子どもたちは自分の大切さを実感し、自分の危機を感じることができるのです。日常が大切なのです。

教職員ワークショップと保護者ワークショップはそれぞれ単独で実施することができます。

保護者ワークショップは、PTAの研修などでもご活用いただき、好評をいただいています。日常生活でいじめ、体罰などにおとながどう対応するかが非常に大きな課題になっている今、まずはおとなが学び、繋がり合う機会として地域や保護者の方々を対象とするおとなワークショップを単独で実施することをお勧めしています。タイトルやチラシ案の作成などについてもぜひご相談ください。



CAPセンター： 特定非営利活動法人 CAP センター・JAPAN
